

# 在中国居留民団史集成

全8巻 第II期

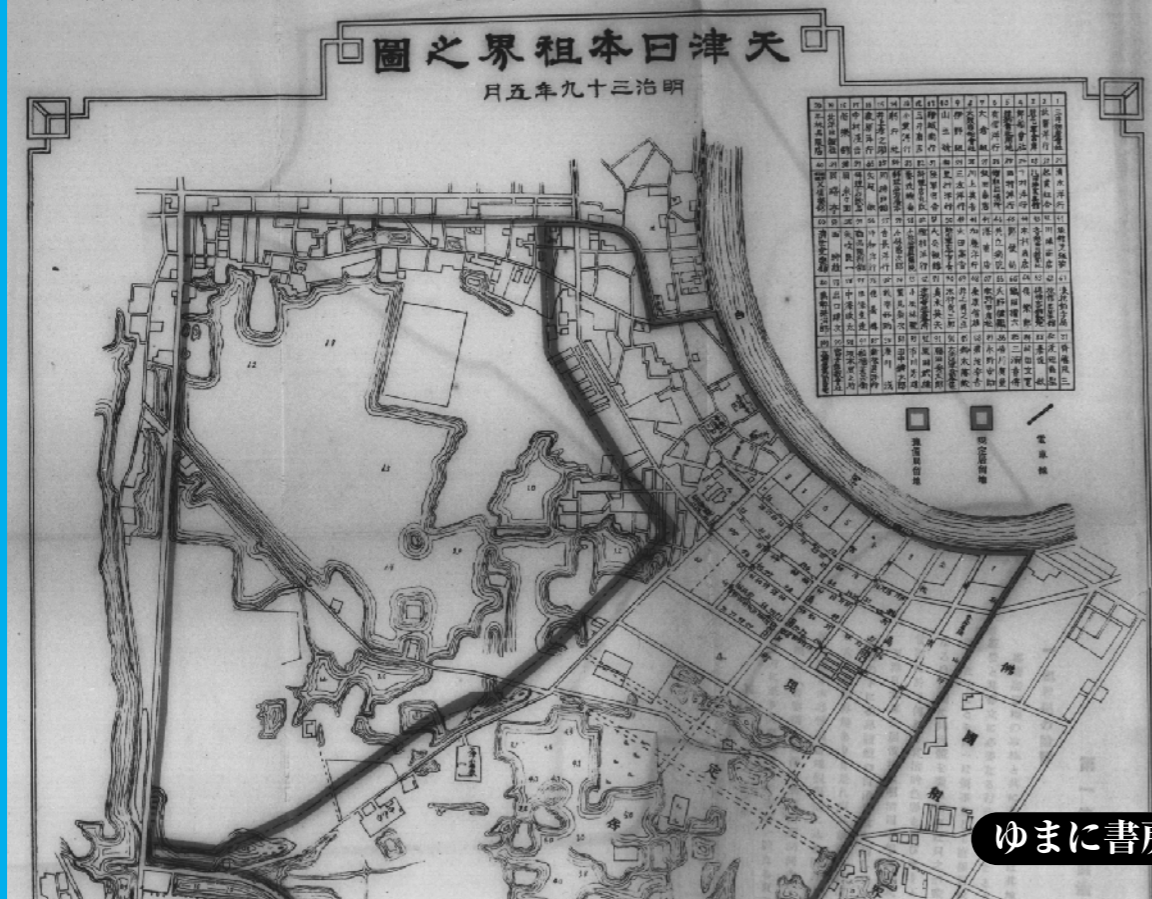
編・解説 ▲ ゆまに書房編集部

租界局二期行政委員局員（『天津居留民団二十周年記念誌』より）



政変・戦乱や感染症、災害、  
そして中国人との友好・対立の荒波に生きた  
在華居留邦人の詳細な記録。  
第II期は天津、營口、ハルピン等の資料を収録。

天津日本租界之図（『天津居留民団二十周年記念誌』より）



ゆまに書房

# 在中国居留民団史集成 第II期・全8巻

【編・解説】 ゆまに書房編集部 ● 揃定価：本体136,000円+税 ISBN978-4-8433-6274-7 C3321 2021年12月刊行予定

## 全8巻の構成

A5判上製/カバー

- ◆ 第7巻 天津民団十週年記念誌 定価：本体10,000円+税 ISBN978-4-8433-6275-4
- ◆ 第8巻 天津居留民団二十週年記念誌 前編 定価：本体20,000円+税 ISBN978-4-8433-6276-1
- ◆ 第9巻 天津居留民団二十週年記念誌 後編 定価：本体20,000円+税 ISBN978-4-8433-6277-8
- ◆ 第10巻 南支南洋二於ケル邦人状況 定価：本体20,000円+税 ISBN978-4-8433-6278-5
- ◆ 第11巻 南北満洲露領邦人発展史 前編 定価：本体20,000円+税 ISBN978-4-8433-6279-2
- ◆ 第12巻 南北満洲露領邦人発展史 後編 定価：本体16,000円+税 ISBN978-4-8433-6280-8
- ◆ 第13巻 營口日本人発展史 建国十周年記念出版 定価：本体20,000円+税 ISBN978-4-8433-6281-5
- ◆ 第14巻 北満草創 邦人発展史 / 解説 定価：本体10,000円+税 ISBN978-4-8433-6282-2



# 在中国居留民団史集成

第I期・全6巻

【編・解説】 ゆまに書房編集部 ● 揃定価：本体115,000円+税 A5判上製 ISBN978-4-8433-6063-7 C3321

上海、南京、安東、吉林、チチハルに存在した日本人の居留民団が、大正～昭和戦前期に発行した公式史を収録。

- ◆ 第1巻 上海居留民団三十五周年記念誌 上巻 定価：本体26,000円+税 ISBN978-4-8433-6064-4
- ◆ 第2巻 上海居留民団三十五周年記念誌 中巻 定価：本体15,000円+税 ISBN978-4-8433-6065-1
- ◆ 第3巻 上海居留民団三十五周年記念誌 下巻 定価：本体18,000円+税 ISBN978-4-8433-6066-8
- ◆ 第4巻 南京日本居留民誌 定価：本体16,000円+税 ISBN978-4-8433-6067-5
- ◆ 第5巻 安東居留民団十年史 定価：本体20,000円+税 ISBN978-4-8433-6068-2
- ◆ 第6巻 吉林日本人発展史/齊々哈爾日本居留民会三十年史/解説 定価：本体20,000円+税 ISBN978-4-8433-6069-9

関連企画

## 近代中国都市案内集成

- ◆ 上海編◆ 全12巻 【編集・解説】 孫安石  
定価：本体277,000円+税 ISBN978-4-8433-3534-5 C3325
- ◆ 北京・天津編◆ 全13巻 【編集・解説】 吉澤誠一郎  
定価：本体283,000円+税 ISBN978-4-8433-3921-3 C3325
- ◆ 大連編◆ 全18巻 【編集・解説】 松重充浩/木之内誠/孫安石  
定価：本体318,000円+税 ISBN978-4-8433-4993-9 C3325

## 香港都市案内集成

【編集・解説】 濱下武志/李培徳 全13巻  
定価：本体197,000円+税 ISBN978-4-8433-4392-0 C3325

## 近代台湾都市案内集成

【編集・解説】 栗原純/鍾淑敏 全20巻  
定価：本体330,000円+税 ISBN978-4-8433-4229-9 C3325



〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL .03 (5296) 0491  
FAX.03 (5296) 0493  
http://www.yumani.co.jp/  
e-mail eigyou@yumani.co.jp



●特におすすめしたい方●  
中国・日本近現代史研究者、植民地史研究者、  
各大学の図書館、公共図書館など。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		取扱店
	<b>在中国居留民団史集成 第II期・全8巻</b> 揃定価：本体136,000円+税 ISBN978-4-8433-6274-7 C3321		
お名前			※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。
ご住所	TEL ( )		

# 刊行にあたって

本シリーズは、先に刊行した『在中国居留民団史集成』第一期の続編である。第一期においては上海、南京、安東等の居留民団・民会の公式史を収録した。本第二期においては、天津居留民団の公式史に加え、東北(満洲)・華中・華南等地域の居留民団・居留民会に関する非公式資料を収録する。

明治期から日本の敗戦まで中国の諸都市に日本人の居留民団・民会が存在したが、これらの団体の中には公式資料を刊行しないまま、消滅したものも多い。そのため、第二期においては、居留民団・民会の周辺において活動した団体・人物による資料を収録することに努めた。

例えば、営口居留民団は、明治四十年に居留民団法の指定を受け最初に設立された民団の一つであるが、その公式史の存在は確認できないため、営口商工会による現地邦人史を加える。

また、華中・華南地域の一部都市でも日本人会や居留民会が存在したが、その多くは発展を見ないまま消滅している。今回収録した台湾銀行による調査資料は、これら団体の活動を知る数少ない手がかりの一つである。

これら非公式資料の記述の方式は様々である。日本人入植の沿革、団体の成立、日本人学校の建設等、公式史同様のスタイルを取るものもあれば、座談会によってざっくりぼらんに過去を回想するというものもある。

形式が様々であるとはいえ、これら非公式資料が居留民団・民会史研究に対して持つ価値は些かも失われるわけではない。こうした資料においても、中国社会との関わりや生活のための施設整備の苦労、数少ない日本人同士のネットワーク等、大陸で生きようとした日本人の努力が切々と語られている。

第一期と同様に、第二期収録の諸資料も、在外邦人に関する研究に広く役立っていただければ、望外の喜びである。  
(ゆまに書房編集部)

## 本文見本

約62%に縮小してあります

### 第三章 漢口ニ於ケル状況

#### 第一 在留邦人数

從來揚子江流域ニ於テ最モ大ナル勢力ヲ占メタルハ、英國人ナリキ然ルニ近來本邦人間ニ對シテ必要大ニ唱導セラレ商工業者ノ覺醒ヲ促シ俄ニ在支邦人事業家ノ數ヲ加ヘ漸次其ノ勢力ヲ増大シタルニ當リ偶、歐洲大戰ノ勃發スルアリ爲ニ歐洲交戦國民ノ發展ヲ阻止シタルニ乘シ邦人ノ機ニ乘スルモノ多ク漢口ニ於テハ今ヤ英國ヲ始メ先進諸國ヲ凌駕スルニ至レリ  
漢口ノ本邦人專管居留地ハ明治三十一年ノ開設ニシテ英、露、佛、獨、各租界ニ比シ建設日淺ク地位亦最僻遠ニ在ルニ拘ラス其ノ經濟的發展ニ至リテハ遙ニ列強ヲ壓スルノ概アリ今最近ノ統計ヲ基礎トシテ之ヲ觀ルニ十五箇國人ヲ網羅セル當港ニ在リテ居留民ノ數ニ於テ邦人其ノ第一位ヲ占ムルノミナラス直接貿易額ニ於テ船舶ノ吸收スル貨物ノ價格ニ於テ關稅負擔額ニ於テ貿易商社數ニ於テ皆優勝ノ地歩ヲ占メタルハ我對外發展上多少ノ快感ナキヲ得サルナリ以下居留民ニ就  
漢口ニ於ケル状況 五九

▲『南支南洋ニ於ケル邦人状況』より

### 哈爾濱之部

#### 石橋三郎氏

原籍 福岡縣久留米市庄島町  
現住所 哈爾濱  
職業 哈爾濱共立日本醫院長

北滿洲刀圭界に在つて、其深奥の素養と、卓越の技術とを以て、獨り香壇の雄を稱ふる者、石橋國手に於て之を見る。君は明治十五年三月、福岡縣庄島町に生れ、生れて聰慧、舉措人と同じからず、郷黨風に峻足を以て稱す。醫家となりて身を立てんと志し、熊本第五高等學校を出で、後、京都醫科大學に入り、明治三十九年十一月、抜群の成績を以て同校を卒業す。

大學卒業後、直ちに京都醫科大學助手に任せられ、在職一年有半、其經驗する所多し。夫より外務省の囑託を受け、吉林に開業する事四星期、後同地に東洋醫院を開設し、之れが院長となり濟生の業に従ふ事二年、遂に東洋醫院の滿鐵會社の經營に移るの際、辭任、一旦歸國し、再び京都醫科

## ◆……………本書の特色と収録内容……………◆

- 天津居留民団の公式史、東北(満洲)や華中・華南地域の諸都市に存在した居留民団・民会に関する調査資料等を収録。
- 日本人の居住開始の経緯、現地領事館の活動、公共施設の整備、日本人学校の設立、自然災害や感染症への対応など、日本人が中国で生活するために行った努力を伝える。
- 居留民団体の所有する文書や在住者からの聴き取り、座談会等を情報源としており、他の史資料には見られない記述を豊富に含む。
- 辛亥革命、北伐、満洲事変、日中戦争等、多くの政変・戦乱が発生した時期において、現地中国人との間で発生した摩擦を克明に記録。
- 居留地における住居、企業、神社、学校等の施設、及び居留民団体の中心となった人物等の写真を多数掲載。
- 第十四巻に詳細な解説を附す。

### 第七巻

〔編〕発行 天津居留民団……………一九一七年

#### 天津民団十周年記念誌

天津居留民団は明治四十年の居留民団法による指定を受け、同種団体の中で最も長い歴史を有した。本書は、その十周年を記念したものであり、日清戦争後において条約に基づく専管居留地の設定や日本人学校の建設、また、外国租界との協力による白河の改修工事等を詳述している。

### 第八巻・第九巻

〔編〕発行 天津居留民団……………一九三〇年

#### 天津居留民団二十周年記念誌 前編・後編

「十周年」に引き続き、その後の十年の歩みを二十周年記念としてまとめたもの。

### 第十巻

〔編〕発行 台湾銀行調査課……………一九一九年

#### 南支南洋ニ於ケル邦人状況

大正期における日本人の中国南部や東南アジアへの進出を見越して、台湾銀行が現地日本人の状況を調査した資料。上海、漢口、香港といった大都市だけではなく、九江、福州、厦門等、華中・華南の中規模都市についても、居留民会や企業、学校等の状況について述べている。なお、中国以外ではシンガポールやジャワ、ムンバイについて報告している。

### 第十一巻・第十二巻

〔編〕木野清一郎 〔発行〕北滿洲社……………一九一七年

#### 南北滿洲露領邦人發展史 前編・後編

編者はハルピンで邦字紙を発行していた、北滿洲社の社主である。本書は、満洲の主要都市、及びウラジオストク、ブラゴエシチエンスク等、ロシア極東の都市に在住する有力な日本人の出身地、経歴、主な事業等について、人物本位の説明を加えている。そのため、資料に乏しい満洲地方都市の居留民会について、有力な情報源として利用できる。なお、原書は全一巻であるが、頁数を考慮し、分冊とした。

### 第十三巻

〔編〕発行 営口商工会……………一九四二年

#### 営口日本人發展史 建国十周年記念出版

本書編纂の中心となった小川義和は長年、営口の満洲新報社に勤務し、また、居留民団で行政委員を務め、同地の歴史に通じていた人物である。軍政から満鉄附属地を経て、民政へ移管された営口の複雑な行政とそこに居住した日本人について詳述する。営口の居留民団については、公式史の存在が確認できず、本書が事実上の通史である。

### 第十四巻

〔編〕佐藤四郎 〔発行〕哈爾濱日日新聞社……………一九三一年

#### 北滿草創 邦人發展史

滿蒙問題に対する関心の高まりを受けて、哈爾濱日日新聞社が昭和六年四月に、明治三十年代からの在住者七名を招いて開いた座談会を収録したもの。ハルピン建設初期におけるロシア人との交流や、義和團事件、日露戦争時における混乱等を回想する。哈爾濱居留民会に関する公式史の存在は確認できないため、貴重な証言と言えよう。